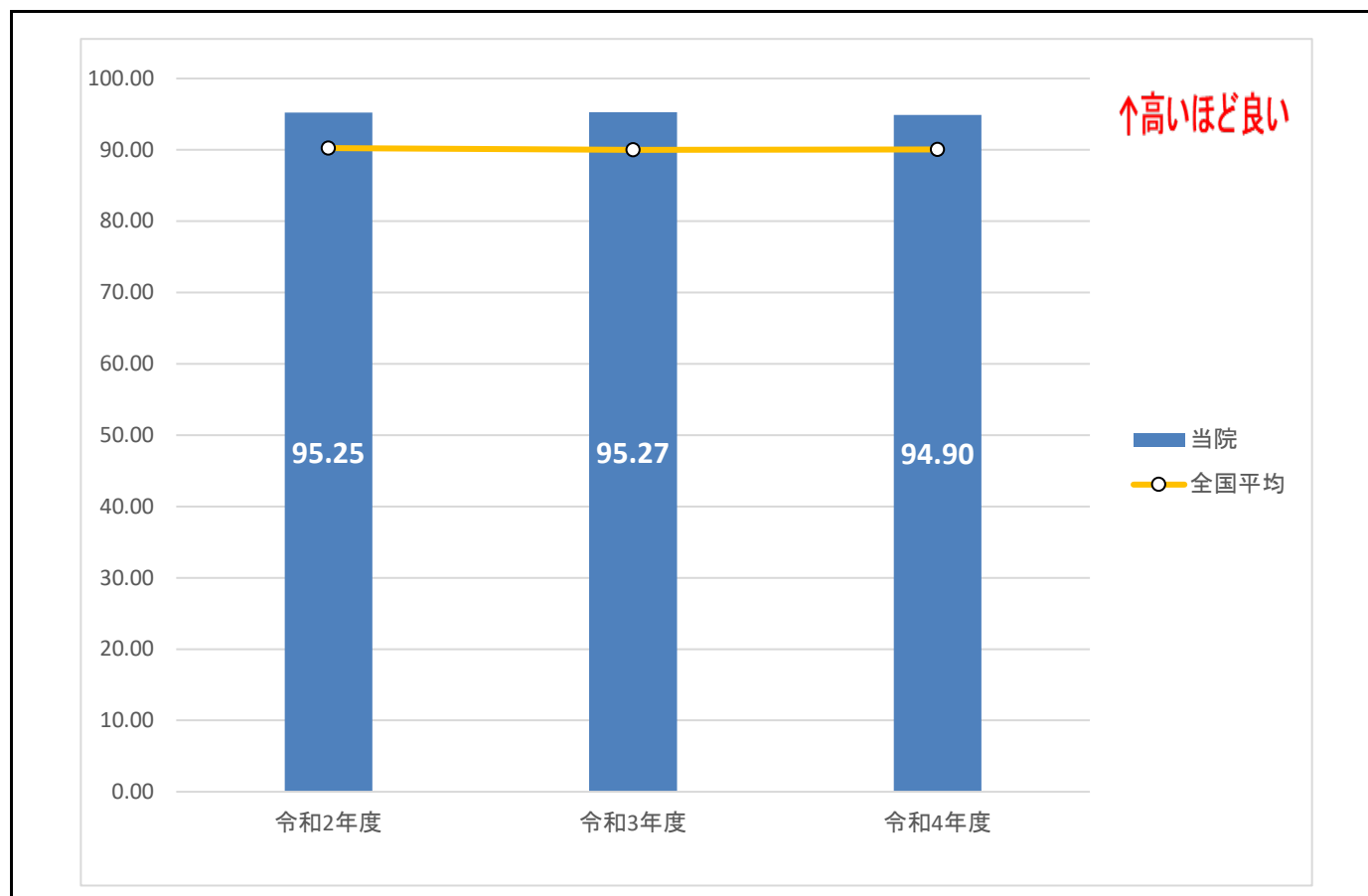


手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率

解説

肺血栓塞栓症は、エコノミークラス症候群ともいわれ、血のかたまり(血栓)が肺動脈に詰まり、呼吸困難や胸痛を引き起こし、死に至ることもある疾患です。長期臥床や下肢または骨盤部の手術後等に発症することが多く、発生リスクに応じて、早期離床や弾性ストッキングの着用などの適切な予防が重要になります。当該指標は、術後肺血栓塞栓症予防の対策の実施状況を評価するものです。



(単位: %)	当院	全国平均
令和2年度	95.25	90.25
令和3年度	95.27	90.00
令和4年度	94.90	90.05

項目定義

肺塞栓症リスクの高い患者に対する、予防対策の実施割合です。